

2024年4月施行の困難女性支援法により
いま注目の集まるアウトリーチ。
好評につき、出版社を替えて改装増刷！



支援を前提としない 新しい子ども家庭福祉

改装版

子ども・若者が創る アウトリーチ

アウトリーチとは「手をのばす」という意味です。

全国子ども福祉センターは、名古屋駅前の繁華街や SNSなどで、子ども・若者に対して声をかけ、つながりをつくる活動をしています。際立った特徴は、団体のメンバーである子ども・若者自身が、子ども・若者に対して声をかけている点です。本書では、この新しいスタイルの児童福祉（子ども家庭福祉）の理念や活動内容を紹介しています。

著者 **荒井 和樹** NPO 法人全国子ども福祉センター理事長／保育士／社会福祉士

北海道苫前郡出身。元児童養護施設職員。日本福祉大学大学院社会福祉学専攻科修士課程修了（社会福祉学）修士。施設職員として在職中、児童相談所や施設型支援に繋がらない子どもたちと出会う。子どもたちを支援や保護の受け手として迎えるのではなく、仲間として迎え、2012年に全国子ども福祉センター設立、2013年に法人化する。子ども・若者とともに街中に交流の拠点を築き、約2万2千人に活動できる環境を提供。現在も同法人理事長を務めながら、共同体自治の実践を続けている。2021年から中京学院大学専任講師。

- 著者 あらい かずき **荒井 和樹**
- 価格 本体 **1,800円+税**
- 判型 **A5判**
- 頁数 **232ページ**
- 発売 **2023年10月中旬**

もくじ

- 第1章 全国子ども福祉センターについて
- 第2章 アウトリーチの5W1H
- 第3章 わたしがアウトリーチを始めた理由
- 第4章 アウトリーチの様々な目的・形態
- 第5章 子ども家庭福祉の役割と課題
- 第6章 アウトリーチの展開過程とスキル
- 第7章 メンバーたちへのインタビュー

主な内容

- 福祉の届かない子ども・若者にアウトリーチし、つながりをつくる方法を紹介しています。
- 子どもを支援対象者として見るのではなく、問題を発見し、解決に取り組む主体として認めることの重要性をうたっています。
- 全国子ども福祉センターが長年実践してきたアウトリーチを体系化し、方法論やスキルをまとめています。
- 現在の子ども家庭福祉の役割と課題をとりあげ、課題解決に向けた提言を行っています。

FAX 06-6357-9279

ご注文は **せせらぎ出版**へ
※返品は長期にお受けいたします。

ご注文申込書	番線印	部数	発行 株式会社せせらぎ出版 TEL 06-6357-6916
		冊	改装版 支援を前提としない新しい子ども家庭福祉 子ども・若者が創るアウトリーチ 荒井和樹 著／A5判／232ページ／ソフトカバー 本体1,800円+税／ISBN 978-4-88416-300-6